

一人一人を伸ばす少人数指導・習熟度別指導の工夫

【杉戸町教育委員会】

1 学校、学年、教科 小学校、全学年、算数

2 ねらい

児童の実態に応じて少人数指導や習熟度別指導を取り入れ、きめ細かい指導をしていくことで、基礎・基本を確実に身につけさせ、思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。

3 取組内容

(1) レディネステストによる児童の実態把握

レディネステストを実施することで、既習事項習得の実態について把握する。

第2学年 たし算とひき算のひっ算レディネステスト			
※(%)は正答率			
1. たし算をしましょう。		2. ひき算をしましょう。	
① 3 + 2 (100%)	② 5 + 3 (100%)	① 4 - 3 (100%)	② 7 - 2 (100%)
③ 6 + 4 (100%)	④ 8 + 2 (100%)	③ 10 - 7 (100%)	④ 10 - 2 (100%)
⑤ 9 + 4 (100%)	⑥ 3 + 8 (100%)	⑤ 13 - 9 (96%)	⑥ 12 - 3 (96%)
⑦ 40 + 5 (100%)	⑧ 6 + 50 (100%)	⑦ 35 - 5 (98%)	⑧ 35 - 30 (98%)
3. 計算をしましょう。			
① 3 + 2 + 4 (100%)	② 9 - 3 - 4 (96%)	③ 9 + 1 + 6 (95%)	④ 12 - 2 - 1 (95%)
⑤ 5 - 3 + 2 (96%)		⑥ 10 - 3 + 2 (100%)	
4. 計算をしましょう。			
① 46	② 57	③ 15	④ 4
+13	+35	+79	+27
(98%)	(96%)	(95%)	(98%)
5. さおりさんは、きのうまでに本を36ページ読みました。今日18ページ読みました。あわせて何ページ読みましたか。			
しき (98%)			
こたえ (89%)			

【2年生「たし算とひき算のひっ算」のレディネステスト】

レディネステストは、少人数指導をする際の小集団作りに活用するほか、授業における既習事項の確認、重点指導を行う内容、意図的な個別指導、学習プリントの作成に役立っている。特に習得が不十分な既習事項については、単元の途中や終末に、補充プリントや確認テストを実施し、学習の積み残しがないように指導している。また、レディネステストを作成することは、教師が指導に際し、学習の系統性を確認することができる。

でき、学習の重点を押さえながら指導にあたることのできるよさがある。

(2) 児童の実態、単元の特性に応じた指導計画の作成

3学年「はしたの大きさの表し方を考えよう(小数)」授業計画						
小単元	時	主な学習内容	ねらい※太字は指導形態決定の要因	指導形態	1時間の主な学習	備考
1 はしたの大きさの表し方	1	・単位量に満たないはしたの大きさを小数で表すこと	○整数で表せない端数部分の大きさを表すのに小数が用いられることを理解する。 ☆身の回りの小数に気付かせる。 ☆具体物を示し量感を育てる。 ☆はしたの部分を表すには、1目盛りを細等分すればよいことに気付かせる。 ↓ 具体物解を速やかに提示すること、経験のある児童の声を適切に把握する	TT	① 日常生活で小数に触れた経験の想起 ② 課題の把握 ③ はしたの量をどのように表せばよいかを各自で考える。 ④ 自分で考えた目盛りについて発表し合う。 ⑤ 話し合ってきたことを0.1を使ってまとめる。	
	2	・「小数」「小数点」「整数」の意味	☆適用問題において、自分の理解を確認させ、適切に問題が解けるようにする。 ↓ 習熟に対応する	一斉	①適用問題(基本的な問題)	
	3	・長さ(cm)の場合も小数を用いてはしたを表すこと ・長さや体積について、小数を使って単数名で表すこと	○長さ(cm)の場合も小数を用いて表すことができ、小数を用いると単数名で表すことができることを理解する。 ☆既習である単位の表し方を確認 ☆1Lを10等分した1つが0.1Lであることをもとにした考え方を深化 ↓ 理解力の違いによる個人差が生じる	習熟度別コース	①問題の把握 ②テープの長さを小数を用いて表現する(自力解決) ③8cm7mmを8.7cmと表すよさについて話し合う ④小数を使った表し方のよさを押さえる(まとめ) ⑤適用問題に取り組む	(学ポラ)
2 小数のしくみ	4	・小数を数直線上に表すこと ・「小数第一位」の意味	○用語「小数第一位」を知り、数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりすることができる。 ☆数直線のかき方 ☆小数も整数も十進法であること ☆小数の位取りの用語を理解(位取り表を活用) ↓ 数直線をかくこと、1目盛りの理解に技能差理解差が生じる。→個々に作業の確認をする	習熟度別コース	①小数を数直線に表すには(1メモリの設定) ②小数で表された量を数直線に表す ③数直線上の小数の読み方を考え、説明。 ④「小数第一位」の用語 ⑤位取り表を使っての小数の位を確認	

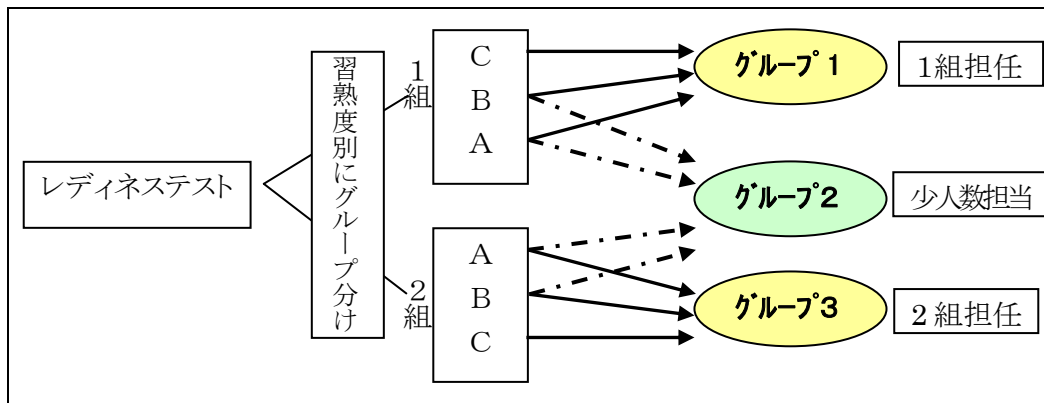
【3年生「小数」の学習の単元計画】

レディネステストの結果や普段の学習の様子、単元の特性をもとに指導計画を作成する。児童一人一人を伸ばす指導をするには、少人数指導、習熟度別指導、チームティーチング等、どのような指導形態が適切かを考え、指導計画の中に位置づける。また、小集団の編制についても実態を考慮し工夫した。

(3) 少人数指導における小集団編制の工夫

児童の実態、単元の特性により少人数指導を導入している。少人数での学習集団を編制する際にも、「児童の実態に応じて」という観点で編制している。以下に、その例を示した。

【2年生「たし算とひき算のひっ算」の小集団編制】



左記の例では、レディネステストにより、各学級を習熟度別にA、B、Cの3つのグループに分け、A（上位）、B（中位）の半数とC

（低位）の全員を学級担任が担当し、両学級A、Bの残りの児童を少人数担当が担当するように編制した。単純編制と等質編制のそれぞれの良さをあわせた編制を行ったものである。これにより少人数によるきめ細やかな指導ができるとともに、話し合い活動では多様な意見が出て考えを深めることができた。

(4) 基礎・基本を定着させる児童の実態に応じた指導の工夫

少人数指導のねらいは、コースごとに児童の実態に応じて、確実に基礎・基本を身につけさせることである。そのため、学習過程を明確にし、学習段階ごとに指導の重点を決めて指導をしている。



【6年生「比と比の値」習熟度別学習でのペア学習】

【6年生「比と比の値」習熟度別学習指導計画】

サクラ コース（基礎定着）	カインキ コース（基礎充実）	ケヤキ コース（習熟発展）
ア 前時までの復習を行い、具 体物操作や体験的な活動を取り 入れる。 イ 教師主導で、全体で題意を 確認する。	ア 具体的な図や線分図などを 用いて、題意や課題をつかみ、 解決への見通しを持たせる。	ア 問題場面を線分図に表さ せる。
ア もう一度教師と具体物で操 作をし題意を確認できる場や時 間の設定をする。 イ 図やヒントカードを用いた り、具体物を操作したりしなが ら線分図に表し、解決できるよ うにする。	ア 図や線分図、ヒントカード などを用いて解決できるように する。 イ 解決が図れた児童に対し て、その考え方や方法の根拠 を見つければ助言をする。	ア 図や線分図などを用いて 解決できるようにする。 イ 解決が図れた児童に対し て、その考え方や方法の根拠 が友達に説明ができるように まとめさせておく。
ア 教師主導になり、補足説明 や言葉や具体物の操作など助言 を入れながら、全体で繰り返 す。	ア ペアの友達やグループで 学び合いの場を設定する。 イ 教師が補足し、それぞれの 考え方や共通点を探しながら繰 り上げていく。	ア 解決方法について、自分 たちで学び合い、深めていく 場を設定する。 イ それぞれの考え方の共通 点や相違点を探しながら繰り 上げていく。
ア 教師といっしょに全体で まとめる。	ア ひとりで、またはペアの友 達と相談しながら、自分の言葉 でまとめさせる。	ア ひとりで自分の言葉でポ イントを押さえてまとめさせ る。
ア 適用問題を、教師主導で確 認しながら取り組ませる。	ア 適用問題を、学習内容を用 いて一人で取り組ませる。	ア 適用・発展問題に取り組 み、自分たちで方法や答えを 確かめさせる。

4 成果と課題

少人数指導を導入していくことで、児童一人一人に目が行き届くようになり、つまづきへの対応が適時・適切にできるようになった。そのため、基礎・基本となる学力を確実に身につけることができた。

それぞれの指導形態には、そのよさと問題点がある。例えば、習熟度別学習指導の場合には、児童の能力に応じた授業ができるが、学習内容によっては、低位のグループで話し合いが進まず、数学的な考え方を広め、深めることがむずかしいということがあった。そこで、児童の実態や単元の特性を考慮し、適切な学習形態を導入していくこととした。今後も、「児童の実態に応じた」指導を工夫していきたいと考える。